

Campus News

[キャンパスニュース]

2023. 7
Vol.62

【特集】

- 前回大会 EVクラス王者が挑む 学生フォーミュラ2023
- 土木工学科開設から1年が経ちました
- 2024年春 静岡駅前の新キャンパスに情報学部の一部研究室が移転します



■ 待ちに待った学内での「交流BBQ」がいよいよ解禁

本年5月8日をもって、感染症法上の新型コロナウイルスの位置付けが5類感染症に変更。それに伴い、本学においては、新型コロナウイルスへの対策として実施していたすべての制限・特例措置を解除しました。

はじまりを、つくる



静岡理科大学





学長挨拶

「真・善・美」を備えた大学に

学長 木村 雅和

2020年に緊急事態宣言が出されてから4年が経過した今年の春、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられました。この4年間、私たちはこれまで「常識」として捉えられていたあらゆることを見つめなおしてきました。本学では、一部の授業を対面からオンラインに切り替え、打合せや出張などにも制限を掛けながら、人と人との物理的な接触を最小限に留めた期間を経て、この春新型コロナウイルスへの対策として実施していた全ての制限・特例措置を廃止いたしました。

こういった環境や時代への対応を通じて、大学として安心して学べる環境を提供することと同時に、こういった変化にも強いレジリエントな人材を育成することが教育機関の役割であると感じています。

さて、世界中がパンデミックに見舞われた当時、経済誌などにはアフターコロナの社会像がたびたび記事として取り上げられました。今まさにその社会が到来しましたが、当時の社会予測として、コロナ後はどのような社会が予測されていたか覚えていますか。当時の記事を見直し、キーワードをいくつか挙げてみますと、

〈産業構造〉 オンラインによる新ビジネスが次々登場。

〈技術開発〉 人間の行動変化が技術革新をリード。倫理観が重要に。

〈雇用〉 AI活用加速により余剰労働力が増大。労働から解放された社会へ。

〈国際情勢〉 大恐慌後で第二次世界大戦前の1930年代に類似。

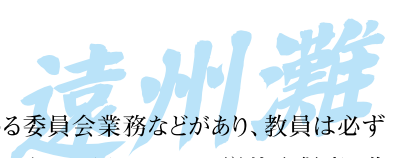
いかがでしょうか。概ね想像通りといったところですが、「倫理観」や「労働から解放された社会」というキーワードに対しては「未だ道半ば」という気持ちにもさせられます。最近話題の生成系AI（対話型AI）により、業務を効率化させるだけでなく、健全で真の豊かさを持つ社会を創るには、高い倫理観が不可欠だと思います。アフターコロナの更にその先、私たちの生活はどのように変化していくのか気になるところです。

技術革新により到来する未来、私たちの生活は豊かでありたいと願っています。目先、小手先ではなく、あるべき姿を描き、教職員や地域の皆様と共有し、この地域の大学として相応しい存在であり続けるため、「真・善・美」を備えた教育研究風土の創造、未来を担う人材の育成に取り組んでいます。

遠州灘

大学の教員が行う仕事は研究、講義のほか、学内の運営方針を決める委員会業務などがあり、教員は必ず何らかの委員会に所属しています。委員会のひとつに講義運営に関するものがあり、そこでは単位取得率、進級率、退学率などの指標を改善するための議論を行っているのですが、このままでは単位を落としそう、退学しそう、という学生を「けねん学生」と呼ぶことがあります。日本語で「懸念」と書くとネガティブな表現に見えますが、ドイツ語でケネン (können) は「できる」という意味を持ちます。

悪いと決めつけずに伸ばす。言葉が導く曇った先入観も、広い世界観で眺めれば、光が差し込んで見えます (M)。



特集①

土木工学科開設1年を迎えて

2022年4月に始動した静岡理工科大学土木工学科が開設から1年を迎えたところで、学科長の松本健作教授にお話を伺いました。



学科長
松本 健作 教授

2023年4月6日、新入生研修会が執り行われました。少し前まで高校生であった新入生がスムーズに大学生活に馴染めるように、教員や先輩と一緒に様々なレクリエーションを実施する企画です。ここに土木工学科2年生が先輩として加わりました。1年前、「他人と話すのは苦手です」と恥ずかしそうに話していた学生が、まだどこかぎこちない新入生達のグループの中に入って、周囲を気にかけて率先して話しかけ、場を盛り上げていました。「1年という月日は学生をこれほどまで成長させるのか」と、驚きと、そして何よりも頼もしさを感じました。彼らの伸びやかな成長を眼前で感じられる教員という仕事の幸運を感じながら、一方では、果たして我が身はどれほど成長できたかと、省みずにはいられませんでした。

土木工学科は本年度、新たに3名の教員を加え、総勢7名で2年目をスタート致しました。学生の成長に負けぬよう、土木工学科自体にとりまして大きな飛躍となる1年としたいと思います。

「教学相長」、学生と教員が共に躍進する今後の土木工学科にご期待ください。



土木工学科の授業などの様子

特集②

2024年春 静岡駅前の新キャンパスに 情報学部の一部研究室が移転します

静岡県内に大学1校、専門学校5校、高校2校、中学校2校、日本語学校2校を有する静岡理工科大学グループの「複合型キャンパス」が、2024年4月に静岡駅前に誕生します。静岡理工科大学からは情報学部の一部研究室がこの「複合型キャンパス」へ移転します。

静岡駅前新キャンパスに移転する4つの研究室

- | | |
|------------------|-----------|
| 1. 視覚色彩工学研究室 | 櫻井 将人 教授 |
| 2. 適応システム研究室 | 高野 敏明 准教授 |
| 3. サービス情報学研究室 | 山岸 祐己 講師 |
| 4. 画像認識アルゴリズム研究室 | 四宮 友貴 講師 |



JR静岡駅から徒歩3分の新キャンパスは
駅から地下通路で直結され通学も便利!

前回大会 EVクラス王者が挑む 学生フォーミュラ2023

8月28日から9月2日に学生フォーミュラ日本大会2023が静岡県小笠山総合運動公園(エコパ)で開催されます。昨年、電気自動車(EV)クラスで優勝を果たした本学学生サークル『自動車部「SIST Formula Project(SFP)」』に、今大会への意気込みを聞きました。



自動車部 部長
今場 大弥 さん

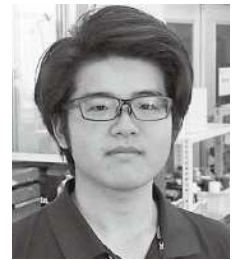
私の中で22年度を振り返ると、最後まで諦めず進み続けた結果得られた優勝であると感じます。22年度大会において車両制御基板の設計・製作を行っていた私は、大会直前まで車両を動かすことができず、体力的にも精神的にも苦しい時期がありました。しかし大会で車両を走らせた一心で基板の試験・改良を続けた結果、見事に耐久走行を完走し、EV部門にて総合優勝を獲得することができました。23年度は22年度大会でEV部門優勝を果たした証として車両番号「E01」をつけ大会に臨みます。本年度は国内EVチームが増え、さらにコロナの影響で数年参加していなかった海外大学も加わり、EV部門は22年度よりも険しい道のりになると感じています。そんな中でもチームの目標として掲げた、チーム設立以来最高順位である総合順位8位*以上入賞を目指し活動に励んでいます。本年度は23年度チームリーダーを務めさせていただき、22年とは大きく立場が変化しましたが、昨年同様最後まで粘り強く挑んでいきます。

*学生フォーミュラではICV(ガソリンエンジン)部門、EV(電気)部門が設けられており、総合順位は両部門を合わせた順位付けとなります。

23年度大会は、前回大会EV部門優勝の証である「E01」をマシンに貼って大会に参戦するというので、例年よりもプレッシャーがかかる状況ですが、チームで一致団結し、目標である歴代最高順位の総合8位を上回る成績を残せるよう、大会までの残り少ない期間、全力で励んでいきたいと思っております。

また、学生フォーミュラ活動は車を走らせることだけでなく、書類の審査も重要であり、今年は書類の製作に例年以上の力を入れました。書類を製作する人数が少ない中、1点でも取れるようにと多くの方にご協力を頂きながら製作しました。

昨年度大会優勝マシンと、持てる力のすべてを注いだ書類で23年度大会でも良い結果を残せるように、最後まで全員で諦めずに一連托生で頑張ります。



自動車部 副部長
岩品 拓海 さん

4月に開催したシェイクダウンには取材のカメラマンの姿も。昨年王者の走りに、地域からの注目も集まっています。



チームメンバー

- チームリーダー
今場 大弥 (電気電子工学科4年)
- ボディ班リーダー
岩品 拓海 (機械工学科4年)
- パワートレイン班リーダー
亀岡 千尋 (電気電子工学科4年)

- サスペンション班リーダー
麻野間大悟 (機械工学科2年)
- チームサポート
夏目 玲旺 (理工学研究科2年)
五十嵐洋太 (理工学研究科1年)

- 石田 遥飛 (機械工学科1年)
- 栗栖 考平 (機械工学科1年)
- 今井 啓心 (機械工学科1年)
- 金井 晴汰 (電気電子工学科1年)
- 柴田 良介 (電気電子工学科1年)
- 池谷 太陽 (電気電子工学科1年)
- 奥村 聡斗 (建築学科1年)

研究者に
聞きました

先生、どうして研究者になったの？

このコーナーは、静岡理工科大学で働く先生がどんな人なのか、研究者の道に進んだ理由、どんな研究をしているかなどを紹介していきます。

今回は紀ノ定保礼先生にお話を聞きました。



- 【氏名】** 紀ノ定 保礼(きのさだ やすのり)
- 【所属職位】** 情報学部 情報デザイン学科 准教授
- 【出身地】** 京都府出身
- 【簡単な経歴】** 同志社大学文化情報学部を卒業後、大阪大学大学院人間科学研究科に進学し学位を取得。同研究科助教を経て、2017年4月より本学に着任。
- 【趣味】** 音楽鑑賞(特に、作曲家、梶浦由記さんのプロデュースする音楽)、カフェ開拓
- 【座右の銘】** 「マイクや録音機器に向かってではない、人の心に向けて音楽をやるのだ(梶浦由記)」
- 【愛読書】** 現代ミステリ小説(宮部みゆき・伊坂幸太郎など)

幸福の記憶だけ残したいと願いながら(アレルヤ / Kalafina)

高校生まで本気で小説家を目指していましたが、高校3年生の冬に応募した小説が落選し、燃え尽きてしまいました。ところが不本意ながら大学進学したことでデータサイエンスに出会い、こんなに面白い世界があったのかと驚き、勉強にのめり込みました。人の「心」に興味があったので心理学の研究室に進みましたが、それまで心理学という学問の存在すら知らなかったのが、最初はとても大変でした。自分は文章を読み書きするのが得意だと思っていたのに、研究の場で求められる読解や執筆能力は、それまで自分が培ってきた能力とはまるで別物でした。初めて読んだ英語論文は隔々まで理解するのに2か月もかかりました。初めて書いた論文は隔々まで添削を受け書き直しました。大学院進学後は、京都大学・神戸大学・関西学院大学など、色々な近隣大学の大学院生たちと出会い、日々切磋琢磨しました。この時代が人生で一番楽しかったです。皆、今でも良き友、良き師、良きライバルたちです。もっとこの世界で研究を続けたいと思っていたところ、幸運なことに大学院修了後にそのまま大学教員として着任することができ、今に至ります。



▲交通研究の拠点、フランスIFSTAR研究所を訪問した際の写真



▲博士論文のためのフィールド実験を行っていた時の写真

踏み分けた荒野に灯火を残して行く(夢の大地 / Kalafina)

大学在学中に、間近で凄惨な事故が起こったことをきっかけに、大学院では「安全」を心理学的に研究することを選び、応用に近い領域で研究を続けてきました。これまでは主に、交通事故にまつわる諸問題を認知心理学・社会心理学の観点から研究し、ときに工学領域と連携してきました。しかし前述のように、私はもともと人の営みをデータサイエンスにより解明しようとする文化情報学に魅せられ、その研究対象として人の「心」を選びました。やや大げさな言えば、「人の心を数式で表したい」というのが当初のモチベーションでした。最近では共同研究者のおかげで、人の認知や行動を数理モデルで表す研究に着手し始め、とてもワクワクする研究に取り組むことができています。『ヒカルの碁』という漫画で、プロ棋士が「プロの道は長い、長いうえにゴールもない、一生勉強なんだ」と言うシーンがあります。日々実力不足を痛感していますが、私も勉強を続け、少しずつ前に進みたいと思っています。研究とは、この世界を相手にしたかくれんぼのようなものだと、よく思います。たいてい、答えを出せないことのほうが多いのですが、たまに「みつけた」と思える瞬間があり、そのときの高揚が研究の醍醐味だと思います。

インタビューを
終えて

オフの日には、音楽を聴いたり映画を観たり美術館めぐりをしたりと、何かの「作品」に常に触れて過ごされる紀ノ定先生。「常に今が全盛期と思えるようでいたい」と、力強い言葉が印象的でした。

授業の紹介

■ 建築環境実験

快適と不快というのは、人間の感覚に基づくもので、人それぞれ快適に感じる環境は異なります。建築環境分野ではこの数値化に取り組んでおり、快適性を明確に数値化することで「快適評価」を行います。他方、建築環境分野の大きな役割として、衛生環境や建材の断熱性などの「衛生環境評価」があります。これらの評価を行うためには、種々のセンサーを使いこなし、環境や物性値を正確に把握しなければなりません。

建築環境実験では、毎回異なるテーマをもとに、建築環境分野でよく使われるセンサーの使い方、得られた結果の使い方を学びます。例えば、快適評価においては温度、湿度、風速、放射などの環境要素の計測方法について実習し、得られた結果をもとに快適を計算します。衛生環境に置いてはガスの濃度や換気量といったウェルネスに大きな影響を与える要素についても計測できるようになります。計測結果と理論値と比較し、誤差について考察することで、建築環境の難しさや面白さに気づいてほしいです。



▲測るには、測り方も大切



▲実測後は、すぐデータ整理



▲実験経過を見守りながら、鍋島先生のコメントを注意深く聞こう

データサイエンス研究室(コンピュータシステム学科)

おじゃまします。



場、刺激の場ともなっています。チームワークを重視し、産業界や学術分野との密接な連携を築き、現実問題に対して実用的・効果的な解決策を模索しています。

データサイエンス研究室は、革新的なデータ分析と機械学習の研究を中心に展開しています。目標は、データを活用して問題解決のための強力なアプローチを開発し、実際に課題解決することで地域や社会に貢献することです。

本研究室では、多くの企業や自治体と協働研究を推進しています。そのモットーは、「地域から課題を頂き、その成果を倍にして返す」です。この趣旨もあり、研究室は卒研究生や大学院生に限らず、多数の学生が出入りしています。その意味では、データサイエンス研究室は、1年生から4年生までの縦型のふれあいの

研究室訪問

第50回

研究室学生からひとこと

山中 碧音 さん

(情報学部 コンピュータシステム学科 データサイエンス専攻3年)

私もデータサイエンス研究室に出入りする学生の一人で、1年のときから、まるで研究室所属の卒研究生のように関わっていました。研究室が主導する地域企業との取り組みにも参加させて頂き、通常の授業では得られない貴重な体験を味わっています。そういった経験を活かし、地域の中학생に対してプログラミング教育の支援を行う学生団体「STEP」のリーダーも務めています。約20名いるメンバーのほぼ全員が、この研究室に日常的に出入りし、スキルアップを目指しています。

研究室担当教員

富樫 敦 先生

■プロフィール

山形県出身。東北大学大学院工学研究科電気及通信工学専攻博士後期課程修了。工学博士。東北大学、静岡大学、宮城大学を経て、2021年に本学情報学部コンピュータシステム学科に着任。

専門は、情報工学・計算機科学、データサイエンス、人工知能など。

Message for S.I.S.T. [大学へのメッセージ]

役に立つ「モノ・コト」を生み出す秘訣は、 気づきのアンテナを立てること、普段の学びを深めること

株式会社PEER 代表取締役 佐藤 真琴 さん



皆さんはSISTが開催する「高校生ものづくり・ことづくりプランコンテスト」をご存知ですか。この全国から毎年数百件の高校生のチャレンジが集まる人気のコンテストに、私は審査員の末席として参加し、チャレンジを応援する学風に個人的に親近感を感じています。

私たちの会社PEER(ピア)では、がんなどの病気の治療や副作用と暮らす人たちの日常生活を豊かにすることを事業化しています。例えば、脱毛時期には専門美容室ピア、がん患者さん専用のSNS、看護師の患者さんへの生活情報提供WEBなど、当事者の話を聞き、困りごとの真ん中を見つけ、解決方法の標準化をしています。

現場で役に立つモノ・コトを生み出すには、課題に気づくこと、手段の精度を上げること、この2つが大切です。ぜひ気づきのアンテナを立て周囲を見渡してみてください。そして、普段の学びを深めてください。そうすると、突然あっと気づくことがあります。気付いたら、実践にチャレンジしてください。チャレンジの繰り返し手段の精度を上げていきます。みなさんの環境を最大限活かして、精度の高いチャレンジを身に付けてください。応援しています。

大学の研究室訪問を通じた学びは刺激的な経験に

静岡県立袋井高等学校 副校長 岡 克彦 さん



静岡理科大学と袋井市の御厚意で、昨年から本校の生徒が理科大学の研究室を訪問させていただいています。先生や学生さんからお話を伺い、施設・設備を見学し、新鮮な驚きや発見があり、生徒たちにとっては、またとない進路学習の機会となっています。各分野の専門家である先生方が高校生でもわかるように話していただき、学生さんたちも自分たちが感じている学びや研究の魅力について熱っぽく語っていただき、高校生にとってもいい刺激になると思っています。

理系の学びは、どれだけその分野にのめり込めるかが重要だと思っています。数学や理科ができることも大切ですが、好きであれば必要なことは後から学んでもいいと思っています。若いうちにこれと思えることに会うために、このような機会を与えていただけたことに、そして温かくアットホームな雰囲気の中で先生方や学生さんに御協力いただいていることに心から感謝いたします。

役職者紹介

2023年6月1日現在

【大学評議員】

学長	木村 雅和
副学長	小澤 哲夫(教授)
理工学部長	丸田 誠(教授)
情報学部長	富田 寿人(教授)
機械工学科長	後藤 昭弘(教授)
電気電子工学科長	石田 隆弘(教授)
物質生命科学科長	山崎 誠志(教授)
建築学科長	太田 達見(教授)
土木工学科長	松本 健作(教授)
コンピュータシステム学科長	幸谷 智紀(教授)
情報デザイン学科長	林 章浩(教授)
学生部長・学生支援統括	國持 良行(教授)
研究・産学官連携統括	齋藤 明広(教授)

入試広報・大学広報統括
大学担当理事
事務局長

野崎 孝志(教授)
梅村 博之
久留島康仁

YES*長 兼

やらまいか創造工学センター長
工作センター長
先端機器分析センター長
情報教育研究センター長
教育開発センター長
科学教育連携センター長
国際交流センター長
防災教育センター長

美馬 一博(教授)
飛田 和輝(教授)
宮地 竜郎(教授)
幸谷 智紀(教授)
足立 智子(教授)
桐原 正之(教授)
谷口ジョイ(准教授)
中澤 博志(教授)

※YES: やらまいかエディケーションサイト

高校生ものづくり・ことづくりプラン コンテスト2022最終審査会

2月18日(土)、高校生の考える「こんなモノがあったらいいのに」や「こんなコトをやってみよう」というアイデアを競う、「高校生ものづくり・ことづくりプランコンテスト2022最終審査会」を浜松市のFUSEで開催しました。

今回で10回目の開催となった本コンテストには、静岡県内外の高校から過去最多の77校617件の応募がありました。最終審査会に出場した5グループによるプレゼンテーションの結果、立命館守山高等学校の大八木望さんが考案した、「カードゲーム『スーパーポジティブ人間!!』」が最優秀賞に輝きました。また、静岡理科大学学長賞には「大量廃棄される貝殻の活用方法、シリーズものコースター」を考案した、昭和女子大学附属昭和高等学校の星野実月さんが受賞しました。



記念図書贈呈

3月3日(金)、袋井市立図書館へ卒業生からの募金による記念図書の寄贈を行いました。大学4年間でお世話になった袋井市へのお礼として、第1期卒業生から第25期卒業生までの25年間は愛野公園へ記念植樹を、翌年の第26期生からは図書の寄贈を行っており、今回が4回目の図書寄贈となります。卒業生を代表して大平成耶さんと川合恒希さんが大場袋井市長を訪ね、科学やものづくりに関する書籍など62冊を寄贈しました。卒業生は「たくさん袋井市の子どもたちに読んでもらい、科学に興味を持ってもらいたいです」と話しました。



令和4年度公開シンポジウム

3月4日(土)、「現代に生きる伝統的土木技術を語る～過去から現代、そして未来へ～」をテーマに、公開シンポジウムを対面・オンラインのハイブリッドで開催しました。第1部の基調講演では、高知大学教育研究部自然科学系理工学部門教授の原忠氏が「土木材を活用した新しい地盤改良技術と気候変動緩和策」をテーマに講演を行いました。第2部では「現代に活かされ続ける土木技術」をテーマにパネルディスカッションを行いました。今回は87名が参加し、「温故知新の大切さを痛感いたしました」などの感想をいただきました。



卒業式

3月11日(土)、令和4年度卒業証書・学位記授与式を挙行了。今回の卒業式においては、卒業生および教職員のマスクの着脱は各自の判断とし開催いたしました。

コロナ禍以降、昨年までは学部ごとに午前との部と午後の部に分けて実施していましたが、今回の卒業式では両学部合同で開催しました。理工学部と情報学部を合わせた学部生369名と大学院生30名が卒業・修了しました。卒業生に向け、木村学長より「在学中に培ってきた『自分の夢』を一生かけて果たしていってほしい」とエールが送られました。



ふくろい産業イノベーションセンター 研究成果報告会

3月16日(木)、「ふくろい産業イノベーションセンター地域研究助成金」を活用し、令和4年度に取り組んだ研究(14件)の概要や成果について発表・展示を行う「研究成果報告会」を開催しました。本報告会は、大学と地域企業、産業支援機関、金融機関等の更なる連携の強化や新たな取組を促進するために企画・開催したものです。当日は、市内外企業をはじめ、大学関係者、産業支援機関、金融機関、行政等の50人が参加し、研究に取り組んだ大学の全教員(11人)がプレゼンセッション及びポスターセッションで発表や説明を行いました。参加者からは、「地域の課題解決や新たな魅力づくりにつながる研究が多い印象。益々の発展に期待したい」等のコメントをいただきました。



第8回春休みたいけん研究室

3月25日(土)、本学で新小学4～6年生対象に第8回春休みたいけん研究室を開催しました。本学学生団体のお理工塾応援隊のメンバーが講師となり、「水と空気」(新小学4年生)、「デンブンの不思議」(新小学5年生)、「指紋を調べよう」(新小学6年生)のテーマでそれぞれ実験講座を行いました。当日は43名が参加し、身近な科学に触れる機会となりました。



入学式

4月4日(火)、令和5年度入学式を挙行し、編入生を含む学部生367名、大学院生39名が入学しました。今回は4年ぶりに全入生が一堂に会し、保護者の出席も可能として式典を開催しました。宣誓した電気電子工学科の江間愛斗さんは「さまざまなことに自発的な姿勢で取り組み、実りある学生生活したい」と誓いの言葉を述べました。



令和5年度第1回公開講座

7月1日(土)、「AI・ICTの活用とアイデア」をテーマに令和5年度第1回公開講座をオンラインで開催しました。第一部では「進化するAI」のテーマでコンピュータシステム学科の富樫敦特任教授が、第二部では「アイデアの原石をプロデュースしてビジネス化! ～キャリアアップ・夢実現に役立つビジネスシンキング～」のテーマでICTビジネス研究会プロデューサーの明神浩氏が講演を行いました。当日は84名が参加し、「社会で話題になっているテーマで、概要がわかり参考になりました」と感想をいただきました。



入試広報NEWS

■静岡理科大学公式YouTubeでは本学ならではの魅力をお届けします。

静岡理科大学YouTubeではホームページでは伝えきれない“プラス”の情報をお届けします。入試情報だけでなく現役理工科大生の様子など、静岡理科大学を「深く・楽しく・気軽に」知ってもらえる動画をUPします！ぜひチャンネル登録をお願い致します。



■進路イベントの日程【8月～11月】

- オープンキャンパス 8月20日(日)、9月10日(日) (事前予約制)
 - 大学見学会 10月8日(日)、11月5日(日) (事前予約制)
- 学科説明、研究室見学、入試説明会、保護者説明会、個別相談など

※イベントの内容は変更となる可能性があります。

(詳細なスケジュールは確定後、受験生サイトに掲載します)

本学受験生サイトはこちら▶
<https://www.sist.ac.jp/navi/>



人事異動 (令和5年4月1日付採用)

①専門分野 ②略歴 ③趣味



物質生命科学科
講師
脇川 祐介

- ①スピル化学、光化学、有機固体材料
- ②新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了後、同大学産学地域人材育成センター研究員、静岡理科大学先端機器分析センター講師等を経て、本学科講師に就任。
- ③バイク、料理、アニメ鑑賞



土木工学科
教授
富永 知徳

- ①構造工学、鋼構造、複合構造、維持管理
- ②東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修了後、一般財団法人国土技術研究センター、日本製鉄株式会社を経て、本学教授に就任。
- ③サッカー、読書、旅行



土木工学科
准教授
居波 智也

- ①海岸工学 再生可能エネルギー
- ②東海大学大学院海洋学研究科海洋工学専攻修士課程修了後、同大学理学部物理学科 非常勤講師等を経て、本学准教授に就任。
- ③自転車、カブト・クワガタ、ピアノ



土木工学科
准教授
鈴木 一史

- ①交通工学、交通計画
- ②名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻修士課程修了後、同大学理学部物理学科 非常勤講師等を経て、本学准教授に就任。
- ③読書、ドライブ、温泉



コンピュータシステム学科
教授
芦澤 恵太

- ①画像情報処理、信号圧縮、応用数学
- ②静岡大学大学院理工学研究科システム科学専攻修士後期課程修了後、国立舞鶴工業高等専門学校教授等を経て、本学教授に就任。
- ③犬との時間、エスパルスの応援



コンピュータシステム学科
講師
河野 郁也

- ①高性能計算、並列計算・アーキテクチャ、実アプリケーション応用
- ②会津大学大学院コンピュータ理工学研究科情報システム学専攻修士課程修了後、会津大学 特別研究支援者等を経て、本学講師に就任。
- ③ゲームプログラミング、コンピュータ音楽制作



情報デザイン学科
講師
白田 泰如

- ①相互行為分析、語用論、コーパス言語学
- ②京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了後、国立国語研究所首声言語研究領域プロジェクト非常勤研究員を経て、本学講師に就任。
- ③登山、クライミング



教育開発センター
特命講師
加藤 昌樹

- ①数学教育、教職課程
- ②日本大学理工学部卒業後、静岡県の高校教員に採用。吉原工業高校の教頭、御殿場高校の副校長、吉原工業高校の校長を歴任後、本学特命講師に就任。
- ③音楽制作、ものづくり

令和5年3月31日付退職

お疲れ様でした

●コンピュータシステム学科
教授
水野 信也

●コンピュータシステム学科
特任教授
工藤 司

●情報デザイン学科
准教授
R.G.McNabb

令和5年4月30日付退職

●コンピュータシステム学科
准教授
定國 伸吾

同窓会
だより

■ 新 同窓会評議員紹介

同窓会会員数
9,408名

この度、第29期卒業生の代表として同窓会評議員に任命されました、大平成耶です。今後は、同窓会評議員として、同窓会活動に真摯に向き合っていきたいと思います。

さて、現在の同窓会では、「ホームカミングデー」や「LINE@」等を活用し、同窓生間並びに大学との交流の場を設けております。「ホームカミングデー」では、同窓生が久しぶりに大学に帰り、友人と語り合う憩いの場となっています。微力ではございますが、同窓会活動に参加することで、より一層、同窓会を盛り上げていきたいと思っております。

今後とも同窓会活動へのご理解ご協力とご支援ご厚情を賜りますよう、宜しくお祈り致します。



同窓会評議員
大平 成耶 さん
(理工学部 建築学科)
卒業生

■ 「第21回ホームカミングデー」の開催について

現在、同窓会では、「第21回ホームカミングデー」の開催に向けて準備を行っております。各イベントの詳細等については、同窓会公式HP及び各種SNSを通じてご連絡致します。

同窓会
公式HP



Face
book



LINE



後援会
だより

■ 保護者懇談会の開催について

本学の保護者懇談会では、午前中に全体会及び学科別懇談会、午後に個別面談(希望者のみ)を開催しています。全体会では、本学の近況や外部講師をお招きして講演会を行っており、学科別懇談会では各学科の特徴や近況などについて説明させていただいております。また、午後に行われる個別面談では、ご希望の方のみとなりますが、助言教員より学業成績や学生生活の様子などについてお話をさせていただいております。

昨年度の保護者懇談会は新型コロナウイルス感染予防の観点から、全体会をオンライン(オンデマンド方式)、学科別懇談会、個別面談を対面にて開催致しました。全体会では、静岡県西部県民生活センター様より、「成人年齢引き下げに伴う消費者トラブルの予防に向けて」をテーマにご講演いただきました。

現在、2023年度の保護者懇談会については、開催方法等を検討しております。詳細については9月に送付する学納金納付書に案内文を同封させていただくか、Webポータルでお知らせいたします。



活躍する卒業生

株式会社シャンソン化粧品
資材部資材課

藤本 一磨 さん

(大学院 材料科学専攻 第25期修了生)

静岡理科大学は良い意味で規模の小さい大学といった印象が強いです。学生と先生方の距離が近く、授業や研究、就職活動と様々な場面で丁寧に対応していただきました。また、測定機器が充実しているため、研究活動に没頭することができました。研究は、自分で計画を立てて実行し、問題点を洗い出し解決することの繰り返しで、この問題解決能力が学生時代を通して最も培われたと実感しています。

私は現在、化粧品会社で在庫管理の業務を担当しています。具体的な業務は、原料の発注、保管、コスト管理などです。在庫点検を定期的に行い、倉庫内配置の最適化することで原料の誤使用などのトラブルを予防したり、需要予測に基づいた発注調整や仕入れ先との交渉を行うことで原価の高騰に対応したりしています。突発的な製造予定の変更にも迅速かつ柔軟に対応し、原料を調達します。最適な部材を採用するために、化粧品や肌に関する勉強だけでなく原料の特性や物流など、自分に足りない知識を見つけて補っている最中ですが、その中で前述の問題解決能力が活かされていると感じます。今後は、原料だけでなく容器や紙器など部材全般に関する知識を深め、新商品開発の業務に携わることを目標に邁進します。

令和5年度 優秀賞表彰

受賞者の皆さん、
おめでとうございます!

1年間の学業が優秀であり、人物面においても本学学生として模範である学生に贈られる「静岡理科大学 優秀賞」の受賞者38名が決定しました。

機械工学科

2年生 岡田 悠汰
2年生 飯沼 飛斗
3年生 高柳 翔
3年生 仲野 倫矢
4年生 横井 優太
4年生 山本 花音

電気電子工学科

2年生 小出 陽生
2年生 鈴木 壮
3年生 密岡 千洲
3年生 向山 純平
4年生 大杉 陸人
4年生 五味 稜馬

物質生命科学科

2年生 植田 真斗
2年生 川田明香里

3年生 五十嵐拓人
3年生 宮下 貴翔
4年生 海野 真輝
4年生 大西 彩羽

建築学科

2年生 望月李穂菜
2年生 長谷川寛樹
3年生 白瀧 昌寛
3年生 守屋 真二
4年生 落合慎太郎
4年生 戸塚 俊汰

土木工学科

2年生 梶山 萌美
2年生 熊切 康介

コンピュータシステム学科

2年生 和泉 碧
2年生 沖根 良賢

2年生 金子 耀太
2年生 波多野涼太
3年生 金山 龍起
3年生 高井 健人
4年生 栗原 宏綺
4年生 佐藤 奏斗

情報デザイン学科

3年生 大窪 茉菜
3年生 森 成輝
4年生 勝又 悠希
4年生 山泉 健



スポットライト がんばる理工科大生

島田 唯之信 さん (機械工学科4年)

私たちは、SpaceTravelerというサークルで活動しており、モデルロケットを開発して打ち上げをしています。

3月に種子島宇宙センターで開催される種子島ロケットコンテスト大会に出場しました。大会では、ペイロード有翼滞空部門と高度部門に出場しました。滞空部門では、静岡県無形民俗文化財の草薙神社龍勢花火大会の打ち上げ方式を採用し、マイコンを使って自動制御しながら滑空機を滑空させました。高度部門では、機体の材質として地元茶葉の出がらしから抽出した繊維を使用しました。

大会の日程とH3ロケットの打ち上げが重なったため、実際にロケットが打ち上げられるところを見学することができました。実物のロケットが飛ぶ瞬間に立ち会えたのは、とても貴重な経験でした。サークル活動にて、モデルロケットの開

発を通じて、工業製品の開発プロセスの体験をして、良いエンジニアとなるように必要な知識や技術を学びました。また、航空工学や物理学などの学問を深く理解することで、より高度なロケットの設計に必要な知識を身に付けたいと思っています。

今年は、残念ながら良い成績を収めることができませんでしたが、来年に向けて頑張っていきたいと思っています。



編集後記

辛い、明るい話題の多い号となりました。と書き始めようと思ったら自宅近くが突風で大変なことになり第9波がやってきてと全国ニュース的には自然の猛威が大暴れのようなです。人知の底上げは、まだまだ必要だなぁと思います。じゃじゃ馬なAIを乗りこなす人材を育てたいんですよね。さて、実は私、本学に就任する以前、何度もエコバに来たことがあったんですけど、採用の公募情報を見るまでこの場所に大学があることを知りませんでした。これはつまり、エコバに来る人みんなに本学を知ってもらえたら、かなりの認知度になるということですね。もっとアピールが必要ですね。そんな気持ちで次はウェブサイトをもうちょっと魅力的にしよう頑張っています(M)。

静岡理科大学キャンパスニュース

令和5年7月31日発行

企画・編集・発行 / 静岡理科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

<https://www.sist.ac.jp> E-mail:shakai@sist.ac.jp

